

新 た な 歴 史 的 使 命 を 果 た す 為 に

－ 双 葉 地 域 の 医 療 再 建 －

福 島 県 立 医 科 大 学

理 事 長 兼 学 長

菊 地 臣 一

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故が起きて、早や5年という月日が積み重なりました。原発事故がもたらした本県の惨禍は、嘗て誰も経験したことがなく、その対応は苦難に満ちたものでした。その苦難は今現在に至っています。

本学は、事故発生直後から、医療の最前線に立ち、本県の医療崩壊を食い止めました。そして、現在まで、医療の復興に貢献してきました。

そうしたなか、事故を起こした原子力発電所の廃炉作業及びその関連で、毎日2万人を超える人々が、この地域に入っています。また、避難指示区域の住民帰還も、本格的になってきています。

我々の今後の果たすべき使命の一つに、新たな目標が加わりました。それは、双葉地域の医療を確立することです。そのうちの一つは、廃炉作業と地域に対する救急体制の整備です。多くの人々が作業して、その分、交通

量が増えている状況では、原発事故現場での事故は勿論、交通事故の発生は必至です。もう一つは、帰還住民の心身の健康の確保です。そのなかには、疾病予防、医療、介護が含まれます。つまり、従来は大きな病院が荷っていた救急業務と診療所が荷ってきた在宅医療や訪問介護の提供です。このハイブリットな機能の一体的な構築は、医療の明日の姿です。このモデルが完成出来れば、明日の日本、そして世界のモデルになります。

この事業を歴史という眼で俯瞰すると、文明史的な意味を帯びてきます。残念ながら、第一次、そして第二次の世界大戦は、人類に大きな被害をもたらしました。一方で、このなかから人類の歴史を変える技術革新が生まれたのも事実です。原発事故の収束作業は、人類が未だ直面したことの無い困難な作業です。しかし、このなかから、未来の暮らしに役立つ技術が生まれ出される筈です。我々は、その作業の円滑な進捗を医療の面で支える事

になります。

文字通り、医療も崩壊した地域の、前述したような医療の再建は、本県に設立されている福島県立医科大学に与えられた天命です。この使命を果たすには、一担当者や一部署による関わりだけでは不可能です。

この使命は、本学の教職員や学生が一丸になることは勿論、関係者の支援があって初めて、成し遂げられるものです。そこで、本学の代表として、添付したような考えを纏めました。御一読して、その理念を御理解下さって、御協力戴ければ幸いです。